

茨城県民は、何と幸せな県民なのだろうと思う。そのわりによくならないのは、ひとえに我々住民側の自覚が足りないせいなのであろう。この人たちのひとりひとりが、真心こめて誠心誠意、霞ヶ浦問題にたちむかってくれたならば、霞ヶ浦がよくならないのが不思議というものである。

私たちの話をきいてくれた、大場水質保全局長は、「霞ヶ浦の問題は、我々も頭をいためています。総合開発プランも考え直す必要があります」
と、かなり理解ある発言をして、聞いている我々をほつとさせてくれた。

毛利長官は、「霞ヶ浦は閉鎖性水域なので水質保全にむずかしさはあると思いますが、私としては出来るだけのことはしたい。総量規制も考えています。」

閉鎖性水域ということは、要するに水ガメ化された水域ということなのだろうと思うけれど、水ガメ化などという、やたらに刺戟的かつ、はしたない言葉を使わないところは、さすがに頭がいい。

毛利長官は次に市長からの意見書に目をやりながら、「あなたがたも大変ですね。私たちががんばりますが、あなたがたの力で、市を動かし、県を動かし、みん

なで霞ヶ浦の問題を考えるように、一生懸命やって下さい。」

何だか逆だね：：：私たちは顔を見合せて苦笑してしまつた。(49・10・11)

◇ ◇ ◇

環境庁長官は、その後二度代つたけれど、霞ヶ浦の状態は少しも変わらないようだ。

カットは 飛田 淳 君 (小学生)

